



Newsletter

No. 54

2013年9月20日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

新たな「映画ムーブメント」の予感 レイバー映画祭にこれまで最高の450人



「長時間、全部観るのはしんどいかなと思っていましたが、どれも面白く中座できませんでした。久しぶりの『らんの旗』はなつかしく、他の諸作品も傑作ぞろい。どんな闘いにもユーモアと余裕が大切だと感じました。当事者のコメントがあるのもよかったです」（さいたま市・H）。7月27日に開催された7回目のレイバー映画祭は、これまで最高の450人が参加し、立ち見も出る盛況ぶりだった。『続・原発の町を追われて』

『メトロレディブルース』では、上映後に映画の登場人物が登場しショートトーク。福島の実現の中で頑張っている人、非正規の差別とたたかう人の生の訴えに会場からは惜しめない拍手が送られた。また

『スペイン モンドラゴンの奇跡』『ショック・ドクトリン』への評価が高かった。恒例の公園二次会には約50人が集まり、ほとんどの人が発言、交流の輪が広がった。新たな「映画ムーブメント」の始まりを予感させた。



*上映作品は次の通り。『檻樓(らんの旗)』『続・原発の町を追われて』『ブラック企業にご用心』『メトロレディブルース〜東京メトロ 売店・非正規女性のたたかい』『3分ビデオ 湯本雅典「何も変わらない中で」・木村修「普天間に呼びかける」・木下昌明「育てる」』『スペイン モンドラゴンの奇跡』『ショック・ドクトリン』。



あっというまに全国に広がる

レイバー映画祭の作品群は、その後あっというまに広がり始めた。『ショック・ドクトリン』は8月神戸のミニ上映会、9月東京平和映画祭、10月5日大竹財団・PARC主催上映会、10月18日岐阜、10月19日大阪上映会と、それぞれ三ヶタ規模の上映会が計画されている。『原発の町を追われて』は2012年レイバー映画祭発表後から話題となり、すでに50ヶ所以上で上映された。『メトロレディブルース』は、10月14日反貧困世直し大集会、10月27日アジア女性労働者交流プログラム、FAV連連影展で上映予定、そして労組・ユニオン・大学などで活用され始めている。福島取材した湯本雅典さんの作品も市民ビデオ賞を受賞し話題になっている。レイバー映画祭の作品群は「観る」だけでは終わらない。観てディスカッションする、一緒に何ができるかを考える。「観る・話す・動く」が一体となった「映画ムーブメント」なのである。

<レイバーネット・今後のスケジュール>

●レイバーネットTV「2013年後期」

後期の第1回は9月11日に放送。福島事故から2年半のこの日、たんぼぼ舎の山崎久隆さんをゲストに「フクイチ・レベル3」を放送しました。汚染水問題・液状化問題などで「安倍の大ウソ」を暴露。視聴数も大きく伸びています。今期はその後、毎月第2第4水曜日夜の放送です。9/25・10/9・10/23・11/13・11/27・12/11と続きます。

引きつづき一緒に番組を作っていきましょう。新しいリーフレットが出来上がりました。無料です、活用願います。

●レイバーフェスタは12月21日(土)

ことしのレイバーフェスタは12月21日(土)田町交通ビル6Fホールで行います。その準備も本格的にスタートしました。ぜひ皆さんの力をお貸しください。

「フクシマ封じこめ」に風穴あけたい

堀切さとみ



鵜沼友恵さん

「映像はヘタ。でもしゃべっている人たちの言葉に力を感じる」とビデオプレスの松原明さんに推され、「レイバー映画祭 2012」で『原発の町を追われて』（40分）を初上映してもらった。そして1年後には「レイバー映画祭 2013」で続編『続・原発の町を追われて』（26分）を上映することができた。

給食調理員の一現場労働者の映像が、果たしてどこまで広がるかと思っていたが、多くの人たちが自主上映会を開いてくれた。脱原発グループ、学校、労働組合、被災者支援団体、映像グループ、町内会、自主避難している個人など、実に様々な人たちが、自前でチラシを作り会場を借り人を集めてくれる。私も学生時代に自主上映の真似事をしていたので、それがどれだけ大変なことかわかっているつもりだ。感激したし驚いた。

数十人規模の上映会だが、いつも映画の後には活発な意見が出された。「映画が比較的短いから、討論しやすい」と言う人もいた。最初は制作者の私が映画の後にはしゃべるだけだったが、映画に登場す

る鵜沼友恵さんも一緒にトークに参加するようになった。当事者の口から出てくる言葉は、映画以上の迫真力があり、参加者の心に「具体的に何をすべきか」を付きつけたのではないかと。騎西高校を訪れたり、被災者支援の活動を始める人も現れた。

また、都内や埼玉に単身避難している人が「映画をみて、ここまで本音が言えていることにびっくりした」と言ったり、最近では、ふだんは口ベタで人前でしゃべるのはちょっと・・・という双葉町民も上映会に足を運んでくれるようになった。「原発避難民のことを、県外の人たちはどう思っているのか」と始めは不安がっていた人たちが、お寺やカフェの上映会で、首都圏の人たちと膝を付きあわせて話し込んでいるのを見るのは、本当に嬉しい。ふるさとを奪われた人たちが、人としての権利まで奪われることのないよう、これからも上映会を続けたい。そして「フクシマ封じこめ政策」に風穴を開けたいと思っている。

（映画『原発の町を追われて』制作者）



8月19日アップリンク上映会

連載コラム「松本昌次のいま、言わねばならないこと」

～戦争の時代を繰り返してはならない～

レイバーネットウェブサイトで4月から始まった月刊連載コラム「松本昌次のいま、言わねばならないこと」が好評だ。松本昌次（まさつぐ）さん（写真）は、1927年生まれで現在85歳。1953年に未来社に入社、30年間編集者を勤めたのち、1983年退社して影書房を創設し、現在にいたっている。評論家の鷲尾賢也氏は、松本さんをこう評している。「丸山眞男『現代政治の思想と行動』をはじめ、戦後社会に絶大な影響を与えた埴谷雄高、花田清輝、藤田省三、廣末保、木下順二、平野謙、富士正晴、井上光晴、上野英信、橋川文三などの多くの著作を手がけた編集者として、松本昌次さんは伝説的・神話的存在である」と。インターネットに全く縁のない松本さんだが、「いまの時代状況にがまんできない。

批評コラムを書いてもいい」と申し出てくれたのが今年の春。第1回「天声人語・異論」から「花は咲く・異論」「村上春樹・異論」「意見広告・異論」「自衛隊の“国防軍”化を喰う」「思い浮かべる（ゲデンケン）について」と締切を一日も遅れることなく、発信を続けている。毎月1日発表、ぜひご注目ください。



1年続いた「あおぞら放送」一時休止に ～フクシマの声を伝えた画期的試み～

昨年2012年9月から毎週金曜日の夕方に放送しつづけた「あおぞらUST放送<テントひろばから～>」のネット放送が、一年・50回を迎えた9月6日で一時休止となった。これまで極寒でも酷暑でも地道につづけた「あおぞら放送」だが、一年を通してみると天気には比較的恵まれていたかもしれない。福島放射能汚染被害者をはじめ、幅広い分野、時には海外からも脱原発を訴える方々に出演していただいた。

一時休止の間に放送チームで編集会議を持ち、これからの資金繰り、そして番組内容や運営をどう改善していくか話し合う予定だ。2年半しても新たな事故を次々と引き起こし、東電福島第一原発がいつこうに落ち着かないなかで、反原発の運動を盛り上げていくきっかけが必要だと感じているのはみな同じだと思う。

そんな中で脱原発テントでのネット放送はこれまでと同じように、みんなが集まる一つのきっかけとして続行するべきではないか・・・と思う反面、実際、観ている人たちや周りの人たちの意見も気になっている。中には、毎週の視聴数が数百で伸び悩んでいるのを見て、放送自体の効果が小さいのではないかという意見も聞く。



イラスト (寺澤瑛彦)



9月6日の放送

放送スタッフの間でも、もっと多くの人に見て／聞いてもらうにはどうしたらいいかというのは常に課題となっている。その答えが見つからないまま、それでもあきらめてしまうのではなく、細くても地道に長くつづけていくことに意味があると思いたい。

これまで一年間集めてきた福島の人たちの切実な訴えや願い、そして日本をはじめとする世界の人たちが原発のない社会を切望する声を、願わくば命がおびやかされない社会を獲得するまでつづけていければと思う。

「あおぞら放送」スタッフのこれからの心の糧になるような、そんな支援や助言や意見を寄せてもらえればうれしい。

(「あおぞら放送」スタッフ・松元ちえ)

*「あおぞら放送」はレイバーネットTVが機材・スタッフ面で全面協力してきました。

『原発川柳句集』11月発行めざして邁進中

169000円の基金カンパ集まる！目標まであと8万円

レイバーネット川柳班の2冊目の句集『原発川柳句集』の制作がすすんでいます。この句集では、2011年3月11日以降、活発に展開された「川柳活動」のまとめでもあります。2年間につくられた句、川柳デモ、笑い草の川柳ビラ、テントひろば句会、その他さまざまな形でアプローチしています。約80ページで11月発行をめざしています。乞うご期待。なお、句集制作カンパにはこれまで30件・169000円が寄せられています。25万円目標まであと8万円。ぜひ、重ねてご協力よろしくお願ひします。カンパされた方には、句集を進呈します。(川柳班)



川柳班の乱鬼龍さんが取りあげられる句碑運動が

新入会員紹介

●言論・表現の自由が危ない 角田富夫

角田です。盗聴法に反対する市民連絡会のメンバーで、言論・表現の自由にかかわる運動にかかわっています。スノーデン事件は、アメリカの恐るべき監視社会の実態を明らかにしました。しかし、これは対岸の問題ではありません。日本も数年後にはアメリカのような監視社会へと突き進みかねない状況にあるとみなくてはなりません。共通番号法がつくられ、さらに秘密保本法、共謀罪、盗聴法改悪、と悪法が次々につくられようとしています。国家の情報はひた隠しにし、市民の情報は奪い取る、そのような社会はごめんです。大変な時期にきていますが、いろいろな運動と連携しながら、この状況を変えるために頑張っていきたいと思います。

●日赤 / スタッフ派遣争議を7年 廣瀬明美



初めまして新加入しました廣瀬明美と申します。私は労働争議をして7年になります。東京地裁では地位確認訴訟を2年半

しています。先月弁論が閉じられ、次回は証人尋問です。10月25日(金)13時15分から東京地裁527号法廷(42人席)にて2年ぶりに公開法廷をします。第二回期日には裁判官より「次回から大法廷にされますか?」と配慮がありました。しかし、同裁判官と被告日赤は原告側の支援者の熱気に圧倒されたと嫌悪し、その結果この2年間、法廷ではない別部屋で期日を繰り返して来ました。同裁判官の意向により尋問から合議体になります。組織「日赤に戻す会」あり。傍聴応援をお願いします!(写真=廣瀬明美さん)

●ゲッター化するフクシマ 秋沢陽吉

原発から60キロの自主的避難区域に住む。政府が根拠なく決めた20キロ圏内避難と年間20ミリ基準がフクシマをゲッター化している。郡山市の



漫画「クズ共」: 杏花花

小学生が提訴した集団疎開裁判は仙台高裁で棄却。松崎道行氏(深川市立病院)は100ミリ安全論は大きな間違いで、10ミリで3%の被ばくによる発がんがある。だから福島県中通り・福島市・郡山市・二本松市等はチェルノブイリにおける移住義務すなわち強制避難区域だと意見書を提出した。矢ヶ崎、松井意見書も採用し裁判所は「被ばくの危険を回避するには安全な他の地域に避難するしか手段がない」と認定した。だが、安倍政府は黙殺し理不尽が白昼堂々と進む。この実情をブログや他の手段で訴えたい。(福島県須賀川市在住)

●差別のない社会を夢見て 藤井豊味

私は、今年3月まであるユニオンで7年間、専従として多忙な日々を過ごしてきた。労使紛争に追われる日々から少し離れ、静養していた矢先、8年前まで4年間働いていた会社が、雇用保険料を給与から天引きしながら未加入だったという事実が発覚。現在、当事者として団体交渉中だ。96%の受給資格者が加入?の健康保険(人材派遣協会の「ハケンのホント」)も未加入だった。国保加入で問題なしという意識の派遣会社は、傷病等で働けなくなった時、無給で直ちに暮らせなくなるというリスクについて考えていない。だから、無理して出勤し、職場で倒れ救急搬送された仲間もいる。今、多くの派遣労働者が、契約更改への影響を恐れ、権利侵害に声も出せず、使い切られているというのに、増やす方向での法改正が目論まれているという。私は、まず、均等待遇実現の前に大きく立ちふさがる労働者派遣制度の壁を取っ払い、すべての人びとが自分の仕事に誇りをもち、安心して働ける差別のない社会を夢見ている。

レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合で個人で全国にアピールする絶好の場所です。

年会費 3,000円
(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

現会員数 536名
ウェブアクセス 1日 5000

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本
銀行口座 東京都民銀行 小竹向原出張所
普通 55002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578